くらし

九州大、肝臓移植1000例

9割超が生体移植

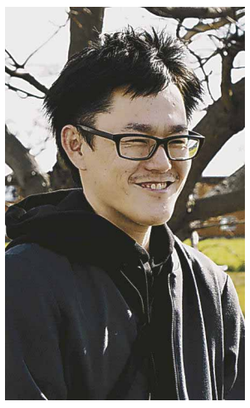
九州大は、重症の肝不全に陥った患者への肝臓移植手術が2月上旬に千例に達したと発表した。親などの親類が肝臓の一部を提供する生体肝移植、脳死状態になった人からの脳死肝移植を合わせた数で、京都大に次ぐ多さという。

移植を受けた患者の病気は成人では肝硬変や急性肝不全など、18歳未満の小児だと胆道閉鎖症などさまざま。1996年10月の1例目以来、生体移植が930例、脳死移植が70例。これまでに全国で行われた肝移植の約1割を占めるという。

80年代以後、免疫抑制剤が改良され世界で脳死移植が進む中、国内では体制整備が遅れて提供数が増えず、今も脳死肝移植は年間60例ほど。それを生体肝移植（年間300例あまり）が補ってきた背景がある。欧米の先進国では、生体移植は「健康な人の体を傷つける行為」としてほとんど行われていない。

記者会見した吉住朋晴教授によると、提供者（ドナー）に合併症が現れる場合でも、胃潰瘍や胆管狭窄などで数年以内に回復しており「患者が元気になってドナーも喜ばれている。生体移植は一概に否定されるものではないと考えている」と説明。肝臓移植が必要な人は全国に約2200人いると推定され、多くが移植を受けられず亡くなっており「脳死移植の普及啓発と人工肝臓など治療法の研究に努めたい」と話した。

生体肝移植1例目、当時7歳 原口さん……いま33歳


「移植後は運動も制限せずできた」と話す原口周三さん

1996年10月14日、九州初の生体肝移植を九州大病院で受けたのは、当時7歳だった佐賀市の原口周三さん(33)。父の誠さん(63)＝佐賀県武雄市＝が自身の肝臓の3分の1を提供した。移植前、一時は命も危ぶまれるほどだったが、その後は順調に成長。「今度は自分が誰かの役に立ちたい」と障害者を支援する仕事にまい進している。

両親によると、生後の原口さんは黄疸がひどく、乳白色の便が出るなどしており、同県嬉野市の病院で先天性の胆道閉鎖症と診断された。生まれつき胆管と腸管がつながっておらず、肝臓でつくられた胆汁がうまく腸管に排出されない難病だ。肝臓の働きや食べ物の消化に影響が出る。

生後2カ月で手術を受けたものの、胆管炎による発熱や黄疸を繰り返し、九大に1～2カ月に1度は入院。徐々に肝硬変が悪化した。腹水がたまって下血するようになり、小学校にも満足に通えなくなっていた。

「今度は自分が誰かの役に」障害者支える仕事

当時、肝移植のためにオーストラリアへ渡る胆道閉鎖症の子どもがニュースで取り上げられていた。京都大や信州大が生体肝移植に積極的に取り組んでいた頃でもあった。両親は「体がきつくて、走ることもご飯をいっぱい食べることもできない。このまま死を待つよりは…」と考え、「九大で移植できるなら受けたい」と小児科の主治医に伝えた。

それからは早かった。血液型が同じ誠さんがドナーとしてさまざまな検査を受け適性が認められた。小児外科と第2外科による21時間に及ぶ手術で移植は成功。誠さんは2週間で退院。原口さんには一時的に拒絶反応や黄疸が出たが、容体が安定し1カ月半で退院した。公的医療保険の適用とならない医療費は、1例目ということで九州大の研究費で賄われた。

「とにかくいつもおなかが痛かったこと、よく入院していたことしか覚えていない」。原口さんの手術前の記憶は曖昧で、父から移植を受けたことも、自身の退院を告げるテレビのニュースで知った。

生体肝移植手術を受け、両親に囲まれて元気に退院する7歳の原口周三さん（中央）
＝1996年12月3日、福岡市東区の九州大病院

退院後、数年間はマスクを着けて感染症に気を付けながら通学していたが、小学3年になると空手道場に入門。中学ではテニス部も掛け持ちして生来の運動好きを発揮。高校では吹奏楽部でパーカッションを担当しマーチング大会にも出た。

卒業後は「なにか人の役に立ちたい」と福祉専門学校に進み、21歳で福岡市の障害者通所施設に就職。今は佐賀市の施設でサービス管理責任者として、知的や精神などさまざまな障害がある利用者の相談や就労支援に携わっている。「できなかったことができるようになると、自分のことのようにうれしい」と言う。

今、移植を思い出させるのはおなかに残る大きな手術痕だけだ。時々風邪をひく程度で大きな病気にはかかっておらず、九大の主治医には「お父さんの肝臓が完全に自分のものになったんだね」と驚かれた。

「当たり前のように過ごしている毎日も、さまざまな人との出会いやタイミングが重なって移植を受けられたからこそだと思う。父や家族をはじめ、関わってくれた全ての人に感謝しています」

（下崎千加）

医療いのち

男と女の更年期外来

男性編❹

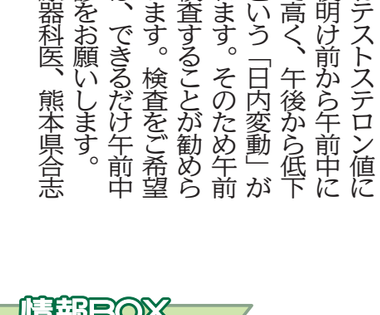
池田　稔

昭和世代も我慢はほどほどに

「更年期だとわかって、ホッとした」

体調不良を我慢して仕事を続けていたけれど、しだいにひどくなる症状に「ヤバい病気だったらどうしよう」と不安になったタレントのヒロミさん。病院通で健康情報に詳しい妻の松本伊代さんに相談したところ、「それ更年期じゃない？」とすぐに病院に連れて行かれたそうです。

米国ボルティモアでの調査(2001年)によると、男性ホルモンであるテストステロンの値が低くなっている男性の割合は、60代で20％、70代で30％、80歳代で50％。別の米国の調査（06年）では、45歳以上の男性の39％が低くなっていました。



もちろん、そのすべての人たちに症状があったわけではありませんが、テストステロン値が低下すれば心身に不調を来しやすくなります。診断を受けたヒロミさんが周りの男性に話すと、「俺もそんなことがあった」という人が多かったそうです。日本でも更年期症状に悩む男性は少なくないようです。

男性更年期障害の診断には、テストステロンの一部である遊離テストステロンの血中の値を血液検査で測定します。1ミリリットル当たり8・5ピコグラム未満を「低下傾向」と判断し、症状の軽重と合わせて総合的に診断します。医療機関によっては、遊離テストステロンのことをフリーテストステロンと呼ぶこともあります。

巨人の星の「たとえドブの中でも前のめりに死にたい」や、あしたのジョーの「なみだ橋を逆にわたっていこう」の言葉に感動しながら育った私を含む〝昭和世代〟は、休まず頑張って働くのが普通と信じ、つらくても我慢する人が多くいます。

けれども誰でも疲れることがあり、誰にでも更年期症状が起こることがあります。我慢はほどほどに、つらいときは体調不良の原因を調べ、必要なら治療をすることが大切です。ヒロミさんは伊代さんの助言をきっかけに治療を受け、以前にも増して元気に活躍されています。

なおテストステロン値は、夜明け前から午前中にかけて高く、午後から低下するという「日内変動」が見られます。そのため午前中に検査することが勧められています。検査をご希望の人は、できるだけ午前中の受診をお願いします。

（泌尿器科医、熊本県合志市）

※次回、女性編❹は4月10日

情報BOX

◆乳がんに関する講演「再発の標準治療」と相談会　4月2日午後1時～3時半、福岡市中央区荒戸3丁目、市民福祉プラザ研修室。乳がん体験者でつくる「あけぼの福岡」の主催。九州がんセンターの徳永えり子乳腺科部長が「知識があれば怖くない！再発の標準治療を学びましょう」をテーマに話すほか、相談も受け付ける。参加費500円。申し込みはあけぼの福岡＝070(4111)4671。メール＝akebonofk@gmail.com

遠出の意欲は健康保つ鍵

徒歩、自転車の許容距離　高齢者調査　筑波大などの研究班

外出先まで500㍍超を歩いて行くこと、1㌔超を自転車で走って行くことを許容できない人は、遠出をいとわない人に比べて要介護、死亡のリスクが高くなるとする研究結果を、筑波大と山口県立大の共同研究グループが明らかにした。

加齢によって活動量が減少しがちな日常生活の中で、遠出の意欲を強く持つことが健康寿命を保つ上で重要だと指摘している。

2013年、茨城県笠間市の高齢者で郵送調査に回答した7千人余り（平均年齢74歳）を21年まで追跡し、その間の要介護度と死亡の状況を調べた。

郵送調査では「自宅からどのぐらいの距離であれば歩いて行こうと思うか」として①1㌔より遠く②1㌔以内③500㍍以内④300㍍以内―の四つの選択肢に分けた。自転車では2㌔と1㌔、500㍍で分け、「乗れない」の選択肢も用意した。

回答を分析した結果、1㌔より遠く歩こうとする人を基準として要介護リスクを比べると、500㍍の人は1.24倍、300㍍の人は1.33倍だった。死亡リスクも300㍍以内の人は1.21倍と高かった。

自転車でも同様に、2㌔より遠く行こうとする人と比べ、1㌔以内の人は要介護リスクが1.39倍、死亡リスクが1.40倍に増加。自転車に乗れない人は要介護で1.67倍、死亡で1.62倍となっていた。

歩行で1㌔以内、自転車で2㌔以内なら行くと答えた人は、それより遠くと答えた人とリスクに差がなかったという。

同じ研究グループはこれまでに、許容する距離が短いほど抑うつ傾向が強いことなどを発表している。

研究成果は公衆衛生の国際学術誌に掲載された。

医療面へのご意見、ご感想、情報をお寄せください。「医見異見」への投稿も募集します。紙上匿名はできますが、氏名、連絡先を明記してください。

【ファクス】092(711)6246　【メール】med@nishinippon-np.jp
【郵　送】〒810―8721（住所不要）西日本新聞医療取材班

丁寧な査定! 買ったばかりのまだまだ新しい農機具
良心的な査定! 故障していて動かないので長年放置していた農機具
想定外査定! 離農したので必要のなくなった農機具
農機具
トラクター・田植機・コンバイン など
現金買取
まずは、お気軽にお電話ください!
出張査定無料
農機具の現金買取なら…
農機具ひろば
0120-37-4000
お問い合わせ時間 9:00～18:00
〒104-0031 東京都中央区京橋2丁目9-12〔東京都公安委員会 第307791406864号〕
運営会社 マシーンコーポレーション
無料査定依頼はHPからでもお申し込みいただけます。
★詳しくお知りになりたいかたはHPにて https://noukigu-hiroba.co.jp→
●一部買取出来ない農機具もございます。●離島など一部対応できない地域がございます。 詳しくは当社スタッフまで。

お引越し先でも西日本新聞
お電話1本で お引越し当日から新聞をお届けします。
移転連絡はこちらまで
西日本新聞エリアセンター連合会事務局
080-7276-5920
県外にお引越しのあなたへ
お引越し先でもよろしくお願いします!
まずは1週間無料のためしよみで
お引越し先が
北海道 なら 北海道新聞
宮城 なら 河北新報
東京・神奈川 千葉・埼玉 なら 東京新聞
愛知 岐阜・三重 なら 中日新聞
お申し込みはこちらまで▶ 総合窓口 0120-026-999（東京新聞お客さまセンター／平日9:30～17:30）
西日本新聞社